

第5学年外国語活動学習指導案

日 時：平成22年10月21日（木） 5校時
児 童：5年1組 男子18名，女子11名 計29名
指導者：品川 慶彦（HRT）
メアリー・バーキッド（ALT）
場 所：プレイルーム

1 単元名 Lesson 7 クイズ大会をしよう（「英語ノート1」 文部科学省）

2 単元について

- 本単元では，今までの学習の中で何度も聞いたことのある表現である，**What's this?**を自然な形で使う場面として「シルエット・クイズ」や「ブラック・ボックス・クイズ」などのクイズを出し合う活動を取り上げる。いろいろなクイズを知り，自分たちでクイズを作り，最後にはグループで問題を作りクイズ大会を行う。これらの活動を通して，言葉ではっきり伝える大切さを知らせるとともに，友達とのコミュニケーションを図る楽しさを体験させたい。
- 本学級の児童は，明るく素直で，外国語活動を楽しみにしている児童が多い。ゲームを楽しんだり，自分の考えをしっかりと発表したりできる児童も多い。反面，正しく発音したいという気持ちが強く，単元の初めはみんなの前で発表することに抵抗感をもつ児童もいる。
そこで，みんなでやるクイズやチャンツを取り入れ，楽しみながら何度も聞くうちに少しずつ発音に慣れ，繰り返し表現させることで自信をもって外国語を使おうとする意識を高めていきたい。
- 指導においては，視覚や触覚などの情報がヒントとなる比較的やさしいクイズに楽しく取り組みせ，このくらいだったら自分でも表現できそうだという自信につなげたい。グループでのクイズ作りでは，互いに教え合うことで，「英語を使ったクイズができた」と1人ひとりが感じられるようにしたい。
また，わからない単語があっても，**What's this?**と尋ねることで，身近なものを英語で言えるようになる楽しさも感じ取らせたい。

3 単元の目標

- (1) 英語にも日本語の二字熟語と同じ様な言葉があることを知る。
- (2) 積極的に相手にこれは何かと質問したり，答えたりする。
- (3) 英語を使って，クイズ大会をする。

4 評価のポイント

- ・積極的に答えようとする。
- ・クイズを考えて，やりとりを楽しもうとする。

5 単元構成表

時	本時の目標	本時の活動	活動の種類		
			◎主	○副	
			聞く	言い慣れる	発話する
1 (本時)	英語と日本語との違いを通して、漢字の成り立ちの面白さに気付く。 (ALT+HRT)	【Activity】 ○の中は何か考えよう。	◎		
		【Activity 1】 この漢字は何か考えよう。	◎		
		【Let's Chant】(1回目) ♪What's this?♪	◎	○	
2	What's this? という質問を理解し、答える。 (T1+T2)	【Let's Chant】(2回目) ♪What's this?♪	○	◎	
		【Activity 2】 ブラック・ボックス・クイズ		◎	
		【Let's Play】 シルエット・クイズ		◎	
3	What's this? を使って尋ねるクイズを作る。 (HRT)	【Let's Chant】(3回目) ♪What's this?♪	○	◎	
		【Let's Play】 シルエット・クイズ		◎	
		【Activity】(準備) クイズを作って聞いてみよう		◎	○
4	What's this? を使って尋ねるクイズを作り、互いに尋ねたり答えたりしながらクイズ大会をする。 (HRT)	【Let's Chant】(4回目) ♪What's this?♪	○	◎	
		【Activity】 クイズを作って聞いてみよう		○	◎

6 本時の指導

(1) 目標

英語と日本語との違いを通して、漢字の成り立ちの面白さに気付く。

(2) 仮説にかかわる具体的な手立て

①仮説1 (教材を効果的に活用すること)にかかわって

ア チャンツ時にCDを使用し、リズムに乗って楽しく言えるようにする。

イ クイズを出題する際、すぐに答えがわからないよう提示を工夫し、意欲的に参加させる。

②仮説2 (評価を効果的に行うこと)にかかわって

ア 漢字の読み方を考える活動を通して、漢字の成り立ちのおもしろさに気付こうとしているか行動観察を行う。(教師の評価)

イ 「ふりかえりカード」を使い自己評価を行わせ、自分のがんばりに気付かせる。(自己評価)

(3) 展開

時間	学習活動の内容	・指導上の留意点 □準備物 ◎評価の観点
導入 5分	1. 全体であいさつをしてから、一人一人の児童とあいさつをする。 HRT/ALT: Hello, everyone! C: Hello, SHINAGAWA sensei! Hello, MARY sensei! ALT: How are you? C: I'm fine/ happy/ hungry/ sleepy.	・進んで英語であいさつをして、積極的に英語を使おうとする雰囲気作りを行う。 ◎進んであいさつをしようとしているか。(行動観察)
展開 35分	2. めあての確認 クイズをしよう① 3. 絵カードクイズをする。 HRT: What's this? C: It's a pencil/ eraser/ cap/ book HRT: That's right! Where is it in picture? C: Here! 4. 漢字クイズをする。 ・漢字を見て、それが何の生き物を表しているか考える。 HRT: Look at this kanji. Can you read it? ALT: I don't know. Please tell me. C: (漢字を見て読み方を予想する。) 5. 漢字の読み方と英語での言い方を確認する。 HRT: What is <i>hitode</i> in English? ALT: It's a starfish. 6. 英語ノート p. 44・45 の絵の中にその生き物がいくついるか数えてノートに書き込む。 ALT: How many starfish/ lobsters/ jellyfish in the aquarium? 7. 電子黒板を見ながらチャンツを言う。 HRT: Let's do the chant together. What's this? What's this? It's a book. It's a book. It's a book.	□電子黒板 □部分絵カード ・教師の見せる部分絵カードを見て、それが何の絵なのかを考えさせる。 ・児童は日本語で答えてもよく、それを指導者が英語で直し、紹介する。 □漢字カード ・それぞれ二つ目の漢字「星」「老」「月」に注目させることにより、これらをヒントにどの生き物かを考えさせる。 ◎漢字の読み方を考える活動を通して、漢字の成り立ちのおもしろさに気づこうとしているか。(行動観察) □電子黒板 ・英語ノートに数を書き込み、みんなで答え合わせをする。 ・英語では、単位がよいことに気付かせる。 □絵カード □電子黒板 ・電子黒板を見せながらチャンツを聞かせ、児童が英語のリズムに慣れるようにする。 ・慣れてきたら、一緒に口ずさむよう促す。 ◎リズムに合わせてチャンツを言おうとしているか。(行動観察)
まとめ 5分	8. 振り返りをする。 HRT: 児童の英語を使おうとする意欲面についてよかったところを話す。 ALT: 児童の発音等についてよかったところを話す。 C: 感想を書いたり自己評価をしたりする。 9. 挨拶をする。 Good-bye. See you.	□評価プリント ◎活動を振り返らせ、感想を書かせ自己評価させる。 ◎子どもの活動について賞賛することで満足感をもたせるとともに、意欲的に活動していた子どもを具体的に紹介し、活動への意欲をもたせる。

(4) 評価の観点

- ・英語と日本語との違いを通して、漢字の成り立ちの面白さに気付こうとする。
- ・クイズに意欲的に参加し、進んで英語で表現しようとする。

第5学年外国語活動学習指導案

日 時：平成22年10月21日（木） 5校時
児 童：5年2組 男子17名，女子11名 計28名
指導者：星 麻美子（T1：担任）
山村 美佳（T2：1年担任）
場 所：体育館

1 単元名 Lesson 7 クイズ大会をしよう（「英語ノート1」 文部科学省）

2 単元について

- 本単元では、今までの学習の中で何度も聞いたことのある表現である、**What's this?**を自然な形で使う場面として「シルエット・クイズ」や「ブラック・ボックス・クイズ」などのクイズを出し合う活動を取り上げる。いろいろなクイズを知り、自分たちでクイズを作り、最後にはグループで問題を作りクイズ大会を行う。これらの活動を通して、言葉ではっきり伝える大切さを知らせるとともに、友達とのコミュニケーションを図る楽しさを体験させたい。
- 本学級は、外国語活動の時間を楽しみにしている児童が多い。これまでのチャンツやゲーム・自己紹介などの活動を通して、外国語活動に対する不安や、コミュニケーションを図ることに対する恥ずかしさが少しずつなくなってきたように思われる。しかし、中にはみんなの前で自分を表現することが苦手なために、はっきりとした声でコミュニケーションを図りたがらない児童もみられる。
そこで、ゲームやチャンツなどみんなで繰り返し言う機会を取り入れ、英語の発音やリズムに慣れ親しませることで、自信をもって英語を使おうとする意識を高めていきたい。
- 指導においては、視覚や触覚などの情報がヒントとなる比較的やさしいクイズに楽しく取り組みませ、このくらいだったら自分でも表現できそうだという自信につなげたい。グループでのクイズ作りでは、互いに教え合うことで、「英語を使ったクイズができた」と1人ひとりが感じられるようにしたい。
また、わからない単語があっても、**What's this?**とたずねることで、身近なものを英語で言えるようになる楽しさも感じ取らせたい。

3 単元の目標

- (1) 英語にも日本語の二字熟語と同じ様な言葉があることを知る。
- (2) 積極的に相手にこれは何かと質問したり，答えたりする。
- (3) 英語を使って，クイズ大会をする。

4 評価のポイント

- ・積極的に答えようとする。
- ・クイズを考えて，やりとりを楽しもうとする。

5 単元構成表

時	本時の目標	本時の活動	活動の種類 ◎主 ○副		
			聞く	言い慣れる	発話する
1	英語と日本語との違いを通して、漢字の成り立ちの面白さに気付く。 (ALT+HRT)	【Activity】 ○の中は何か考えよう。	◎		
		【Activity 1】 この漢字は何か考えよう。	◎		
		【Let's Chant】(1回目) ♪What's this?♪	◎	○	
2 (本時)	What's this? という質問を理解し、答える。 (T1+T2)	【Let's Chant】(2回目) ♪What's this?♪	○	◎	
		【Activity 2】 ブラック・ボックス・クイズ		◎	
		【Let's Play】 シルエット・クイズ		◎	
3	What's this? を使って尋ねるクイズを作る。 (HRT)	【Let's Chant】(3回目) ♪What's this?♪	○	◎	
		【Let's Play】 シルエット・クイズ		◎	
		【Activity】(準備) クイズを作って聞いてみよう		◎	○
4	What's this? を使って尋ねるクイズを作り、互いに尋ねたり答えたりしながらクイズ大会をする。 (HRT)	【Let's Chant】(4回目) ♪What's this?♪	○	◎	
		【Activity】 クイズを作って聞いてみよう		○	◎

6 本時の指導

(1) 目標

What's this? という質問を理解し、答える。

(2) 仮説にかかわる具体的な手立て

①仮説1 (教材を効果的に活用すること)にかかわって

ア チャンツ時にCDを使用し、リズムに乗って楽しく言えるようにする。

イ 「ブラック・ボックス・クイズ」や、「シルエット・クイズ」を出題する際、すぐに答えがわからないよう装置を工夫し、活動意欲を高める。

②仮説2 (評価を効果的に行うこと)にかかわって

ア 「ブラック・ボックス・クイズ」では、前にいる児童にヒントを言ったり、「シルエット・クイズ」では、進んでゲームに参加しようとしたりしているか、行動観察を行う。(教師の評価)

イ 「ふりかえりカード」を使い自己評価を行わせ、自分のがんばりに気付かせる。(自己評価)

(3) 展開

時間	学習活動の内容	・指導上の留意点 □準備物 ◎評価の観点
導入 5分	1. 全体であいさつをしてから、一人一人の児童とあいさつをする。 T: Hello, everyone! C: Hello, HOSHI/ MIKA sensei! T: How are you? C: I'm fine/ happy/ hungry/ sleepy.	・進んで英語であいさつをして、積極的に英語を使おうとする雰囲気作りを行う。 ◎進んであいさつをしようとしているか。(行動観察)
展開 35分	2. めあてを確認する。 クイズをしよう②	
	3. リズムに合わせてチャンツを言う。 T1: What's this? T2/ C: It's a book. T1: Let's change the words. T1: What's this? T2/ C: It's a starfish.	□電子黒板 □絵カード □CD ・T2 は、児童と一緒に言うようにする。 ・慣れてきたら、“It's～.”に水族館の絵の中に出てきたものの単語をいれてチャンツを言う。 ◎意欲的に“What's this? It's a～.”という表現を言おうとしているか。(行動観察)
	4. シルエット・クイズをする。 T2: What's this? C: Rabbit/ Yacht/ Bird/ Butterfly.	・シルエットカードを見せ、それが何かを推測させる。 ・児童が英語で言えないものは、繰り返して児童に聞かせるようにする。 ◎意欲的にゲームに参加しようとしているか。(行動観察)
まとめ 5分	5. ブラック・ボックス・クイズをする。 ・さわってみる前に、ヒントを出し合い考える。 T1: Let's play Black Box Quiz. T1: What's in the Black Box? C: It's an eraser. T1: That's right.	□ブラック・ボックス ・T1 とT2 でクイズをやってみせる。 ・箱の中に入れるものは、児童が触っても安全で推測しやすいものとする。 ・さわる前に、解答者がほしいヒントを出し合うことによりコミュニケーションを図らせる。 ◎前こいる児童にヒントを言ったり、ブラック・ボックスの中のを予想して答えたりしようとしているか。(行動観察)
	6. 振り返りをする。 T: 児童の英語を使おうとする意欲面についてよかったところを話す。 C: 感想を書いたり、自己評価をしたりする。	□評価プリント ◎活動を振り返らせ、感想を書かせ自己評価させる。 ◎子どもの活動について賞賛することで満足感をもたせるとともに、意欲的に活動していた子どもを具体的に紹介し、活動への意欲をもたせる。
	7. 挨拶をする。 Good-bye. See you.	

(4) 評価の観点

- ・What's this? という質問を理解し、進んで言おうとする。
- ・クイズに意欲的に参加し、進んで英語で表現しようとする。